

37 ヨハネ 12 章 1-11 節

1、「内容観察」この箇所を自分の言葉で表現してみましょう。どんなことが記されてありますか？

※今日の箇所からの学びに入る前に、今一度この時流れていた空気がどんなものであったかを確認しましょう。(53-57)

「その日以来」とは？(49-52)

2、そんな中イエス一行はエルサレムの隣にあるベタニアに来られたのでした。(1)

・自分もイエス一行の一人として、ベタニアのラザロ、マルタ、マリアの家に行くことを考えてみましょう。
<どんな気持ちですか・>

3、あなたの座るテーブルの向こう側に、死からよみがえったラザロが座っていて、マルタは相変わらず、もてなしのために忙しそうに動き回っています。マリアは、イエス様の御許に近寄り、座り込んで、その御足に高価な香油を塗り、自分の髪の毛でぬぐいだした。…(イメージしてみてください)…

・あなたはどこに関心の目が行きますか？(そして何を考えますか?)

※ナルドの香油…ユダが売れば 300 デナリになるものと評価しています。1日の賃金が1デナリ。つまり、300日分の給料の金額ということになります。最低賃金 950 円×8h×300日=228万円ぐらい

4、人によって関心の目が行くところが違っていました。

・そこに集まってきた悪意のあるユダヤ人たちは、イエス様の命を狙う事に関心がありましたが、好意的なユダヤ人たちの関心はどこでしたか？(9)

・イエス様の命を狙うユダヤ人たちは、更にどういう心境にまで至っていましたか？(10.11)

・弟子のひとりであるユダが関心を向けたのは何でしたか？また何を思ったのでしょうか？(4,5)

・どうして彼はそこに目が留まったのだと思いますか？(6)

※人は関心のあるものに目が行くものです。次のイエス様の教えを心に留めましょう。(マタイ 6 章 21-23 節)

5、イエス様はマリアの行為を擁護し、それが自分の弔いの準備でもあると教えました。(7)

※この箇所と 13 章 2 節、また 13 章 25-30 節のつながりを説明してみてください。

6、今日の箇所を通して、神様(イエス様)はどのようなお方でしょう。またどんな約束、模範がある？またどんな注意、戒めがある？